

## 第4回兵庫県公立大学法人評価委員会 議事録

### 1 会議の日時及び場所

- (1) 日時 平成26年3月7日(金) 15:00~17:00
- (2) 場所 兵庫県民会館12階 1201号室

### 2 出席した委員

石川委員長、瀬川委員、西門委員、西川委員、藤田委員

### 3 出席した職員

(兵庫県)

平野知事公室長、片山管理局長兼大学参事、戸田大学課長

(公立大学法人兵庫県立大学)

藤原理事兼事務局長、藤森事務局副局長兼経営企画部長

### 4 会議の内容

(1) 開会

(2) 議事

各年度終了時の評価等について

事務局より資料1、2について説明後、意見交換を行い、概ね了解を得た。

(下記5参照)

業務実績の評価方法(案)について

事務局より資料3~5について説明後、意見交換を行い、概ね了解を得た。

(下記5参照)

財務諸表の承認の考え方(案)について

事務局より資料6について説明後、概ね了解を得た。

今後のスケジュール

事務局より資料7により説明。

(3) 閉会

### 5 意見交換の概要( :委員、 :法人又は事務局)

[各年度終了時の評価等について]

来年度の評価委員会では、まず法人からヒアリングを行うこととしているが、丁寧なヒアリングをするとかなり時間がかかると思うが、どのような方法で行うのか。

事前に委員の皆様にごく個別に説明に伺う予定である。その際に例えば、特に聞きたいところなどをお聞きしておき、それを受けて説明を行うなど、なるべく効率化を図りたいと思っている。時間は2時間くらいを予定しており、最初の1時間45分はヒアリングの時間とし、残りの15分~20分間は大学側に一旦退席してもらい、委員の皆様から意見をいただく時間としたい。

大学によっては、学部や研究科単位で外部評価を定期的に行っているところがあるが、県立大学では実施しているのか。外部評価を実施することで、各学

部の全国での位置や、どのくらい頑張っているのか、踏み込んだ評価ができる。また、そのような外部評価の時の報告書は、法人評価をする上でも非常に役に立つ。

大学全体では7年1度、専門職大学院では5年に1度、国の外郭団体である認証評価機関の認証評価が入る。それ以外について現在把握しているのは、工学部において、客観的な教育水準が保てているかどうかを「J A B E E」という認証機関からの認定を受けているので、必要な場合は報告書を提示させていただく。

公立大学の場合は、法人の設立に力点があり、法人として定められた使命を遂行しているかというところが重要になってくる。

#### [ 業務実績の評価方法（案）について ]

大学には、具体的な事実を書いてもらう必要がある。進捗状況を見る場合、5段階評価より4段階評価のほうが適切だが、主観的になるため勇気がいる。まずは、各委員からどう評価するか意見をいただいた上で、それを事務局で案としてまとめていただくほうが効率的である。他大学の評価方法を見ても、評価項目がかなり多く、そうなると何がどう進捗しているのか把握できなくなってしまい、まとめるのが難しくなる。大学が非常に頑張っているところや、問題があるところなどの仕分けを手伝うのが、この評価委員会の場であると思っている。

一般的に考える評価というのは、実質数的評価である。例えば、就職率や、入学志願倍率など具体的な数字として出していくことが1番の評価基準になる。

平板的に全てを評価して平均値をとっても意味がないので、特色があって特に優れているところと、遅れているところを抜き出して書いてもらうほうが評価しやすい。大学は大学で自己評価した部分を、評価委員会として別の観点で評価をしていくことで、客観的な評価ができる。着眼点を絞ると漏れてくる部分が出てくる恐れがあるので、その場合は、コメントなどで補完をするなどの対応をすればよい。

119取組の取組を25の小項目にまとめることとしているが、その119の項目を大学では全て自己評価を行う。現在、来年度の年度計画を作成する際の自己評価作業を行っているため、119項目について、実績報告書に内訳として書くことは可能である。

その 119 項目の評価はバックデータとして大学として作成されるので、実績報告書には大学なりの意見を集約し、委員の皆様が気になる部分については、そのバックデータを公開して、別紙でチェックいただくという方法もひとつある。

年度計画では、多くの項目で「検討する」やそれに近いものが多く、数値目標を入れようがない項目がある。実際は、その内容の質、量、時間の3点が重要になってくると思うが、そこを数値目標化するのは難しいと感じる。また、大学が狙っているレベルがどのくらいなのかが見えないので、やはりそこは数値化することで評価がしやすくなるのではないか。

中期計画を作成する際に、12項目の評価指標を設定している。それは各年度の目標や、6年後の目標もあり色々な要素が入っている。そういったものについては、毎年評価いただける部分ではある。

骨子のところは、最終的に25の評価項目でまとめていただき、評価委員会でもその25項目を評価することとする。

大学と評価委員会の評価に差異がある場合は、どうするのか。

どうしても調整できない場合は、両論併記という対応を取らざるを得ない。

大学側が、自己評価をしたものを、一旦事務局で受けて、数値なども整理し評価案を作った上で、評価委員会にお示しするという形にする。その作業を事務局が実施するにあたり、漏れがあるなどご指摘をいただければ、その都度対応をするという形にさせていただきたい。

入学者と卒業生の推移を学部別で表示したものは、データとして添付いただきたい。そうすることで、どの学部が伸びているか、入学者に比べて卒業者が少なくないか等、評価の基準にもなる。

就職先のリストや留年者の状況についても情報が欲しい。

情報として付けさせていただく。

中長期的に日本国内の子どもは減っていくため、留学生の活用もしていかな

ければいけない。留学生を多くとれる大学は、国際的にも認知度が高いということであり、そのような方向性や、色んな指標を掲げることが必要である。大学間競争が厳しくなる中で、様々な大学間連携を図り特色を出しながら、それを伸ばしていくことが大切である。

学部の改廃などの戦略的な決定はなかなか自分たちだけではできないので、外部評価のようなシステムを作っていただき、国際的にも素晴らしい大学として伸びてほしい。

組織改編について内部で検討を行っており、法人本部としてしっかりした経営戦略を作っていかなければいけないと考えており、この評価委員会で評価を受け、委員の皆様から意見を得て、それを外部からのプレッシャーとして受けながら学内を改革していきたい。

今、どこの大学でもグローバル化で英語をさせようとするなどの動きがあるが、グローバル化が先にあるのは、違うのではないかと感じている。英語教育も大事ではあるが、もっと大学の強みや目指すものがある、そのためにいかに高いレベルで研究をするか、学生を獲得していくかであり、グローバル化は一つのツールであるのではないかと思う。

日本を中心にアジアでも高齢化社会が進んでいる今、看護という分野は特色をもったものであり、そのようなことを中核にした世界の先頭を走る目標を作るべきである。

アジア太平洋の国際アカデミックネットワークを作り、海外の大学とのジョイントディグリーや、新しい教育プログラムができるように検討を行っている。

中期計画は6年間でやるべきことと、中には1年や2年で達成し、次の検討項目を出して進めていかなければいけないものがあると思う。その区別が分かりにくい、スピード感が分からない部分はある。

来年度の4月に開設する研究科の設置など、単年度終わる項目も中期計画に入っている。すべての項目に年次を入れることは難しいが、主要なものについては、一覧表にしたものを作成している。